

大久保 規子

法学研究科・教授

【研究】

今年度は、第1に、前年度に続き、自然の権利に関する学際的な研究プロジェクト(科研費基盤 A:研究代表者)を推進し、国際会議で報告するなどして、研究成果の国際発信と意見交換を行った。第2に、コミュニティ参加型の自然資源管理に関しても、北タイに焦点を当てて日本及びタイの研究者による共同研究(科研費国際共同 B:研究代表者)を継続し、タイの国内機関だけではなく、ESCAP等との意見交換を行い、連携を図った。そのほかにも、学内では SSI の生物多様性プロジェクトに継続参加し、学外でも将来世代の権利、高レベル放射性廃棄物、防潮堤の合意形成等に関する3つの科研の共同研究に分担者として参加し、国際会議で報告するなど、上記2つの研究を柱に関連する研究を進めた。そして、これらの研究成果について、環境法政策学会総会報告、論文公表等を行った。

【教育】

例年担当している法学部、法学研究科、高等司法研究科の担当授業に加え、地方自治法を新たに担当し、集中的に教材作りを行った。また、特任教授として来日したチアゴ・マハーラ教授の比較行政法の集中講義をコーディネートし、授業に参加して交流を図った。

【管理運営】

特記事項無し。

【社会貢献】

前年度に引き続き、中央環境審議会委員、交通政策審議会委員、大阪府公害審査会委員等、国及び自治体の審議会等で、各種計画の改定審議、新たな施策の立案、適正な紛争処理等に努めた。また、環境法政策学会、日本公法学会、環境経済政策学会の理事等として学会の運営に参加した。さらに、今年度から、JST と JICA が共同実施する ODA プログラムである SATREPS の環境領域の研究主幹となり、新規採択課題の具体化等に関わった。そのほか、NGO 等が主催する講演会等において、研究成果の社会還元に努めた。